

# 行政視察報告書

令和 7 年 2 月 28 日

長浜市議会議長 様

長浜市議会議員 大橋 延行



私が出席した次の行政視察の結果について報告します。

## 記

1. 視察等名 令和 6 年度 恵風会行政視察
2. 視察期間 令和 7 年 1 月 30 日 (木) ～ 1 月 31 日 (金)
3. 視察場所及び目的
  - ① 東京都台東区役所
  - ② 厚生労働省医政局地域医療計画課地域医療構想推進室
  - ③ 掛川市・袋井市病院企業団立中東遠総合医療センター

## 4. 調査内容感想等

### ・視察の目的

- ① 台東区北部地域におけるリノベーション型まちづくり事業について
- ② 長浜市の医療再編と地域医療の未来の方向性について
- ③ 異なる自治体間の病院統合の事例について

### ・視察の内容

- ① 台東区都市づくり部地域整備第二課より下記の説明を受けました。  
市内の空き家・空き店舗の活用について、リノベーションを活用し進めている。  
事業の進め方は、ステップ 1 地域の現状を把握するための調査 ステップ 2  
活用可能な空き家の洗い出し、地域のキーパーソンの発掘 ステップ 3 外部へ  
の情報発信、地域の魅力について

具体的な取り組みについては、\*勉強会や街セッションの取り組み（講演会や意見交換会）\*情報発信（タイトオーキタリズムの発行\*地域活性化イベントの実施\*リノベーション支援活用候補物件の情報発信

② 厚労省より下記の説明を受けた

医療需要の変化・医療機関機能の考え方・二次医療圏を基礎とした医療提供体制の維持・訪問診療及び介護保険施設の地域差現状について

\*医療需要の変化 85歳以上の人口が2040年まで増加し、医療・介護の複合ニーズが高まる。2020年から2040年にかけて、85歳以上の緊急搬送は75%増、在宅医療需要は65%増加する見込み

\*医療機関機能の考え方 医療機関の機能を「治す医療」と「支える医療」に分け、地域の実状に応じた役割分担を明確化する。都道府県が地域の医療体制を確保するため、医療機関から地域の役割を報告させる仕組みを推進。

\*二次医療圏を基礎とした医療提供体制の維持 2040年をミスヘ人口20万人未満の地域に於いて、医療需要の変化や医療従事者の確保、医療機関の維持への課題について。必要に応じて医療提供圏域を拡大し広域的な視点での医療体制の構築。在宅医療を含めた新たな地域医療構想策定を推進するため、ガイドラインで議論をする主な参加者の明確化

\* 訪問診療及び介護保険施設の地域差 地方の過疎地域に於いては訪問診療患者の自宅が離れており効率が悪いなど課題がある

③ 経営統合に至った経緯について下記の説明を受けた

掛川・袋井料市立病院に於いて、施設の老朽化や医師確保の共通の課題があり、今後診療科の縮小、病棟の閉鎖による経営の悪化の恐れがあるため、医療圏域の医療崩壊を防ぐために議論が開始された。

当初はそれぞれの市立病院の建て替えを視野に入れ議論されたが、医師派遣元である浜松医科大学学長からの再編統合の案が提案され、学識経験者医療関係者も同意し、両市ともに再編統合が望ましいと意見集約され「掛川・袋井市新病院協議会」が設立された。

市民感情及び患者（病院利用者）に対して 協議状況をすべて市民に対して公開された。新聞、テレビなどマスメディアの報道、毎月の広報全戸配布・説明会・シンポジウム 開催 し病院の現状、実態を説明された。

---

・行政視察の結果を本市にどのように反映させるか

長浜においても、地元企業との連携を強化・マッチング支援体制を構築し、また地域の自主的な活動を支援して持続可能なまちづくりを行いたい。

また、客観的で正確なデータの開示、結論ありき、一定方向に誘導する情報開示ではなく、市民に理解していただく 情報開示の必要性を改めて感じました。

「病院の質は職員の質」という信念のもと、様々な取り組みを実施しておられる、合意形成や組織のマネジメント力について、首長・議会のあり方が問われていると認識をした。長浜市に於いて何ができるか見つめなおしたい。

---

---

---

---

---

---

---